

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

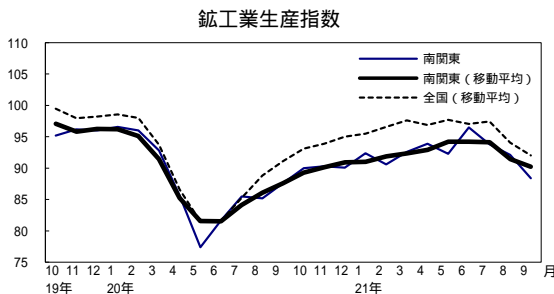
前回からの主要変更点

	前回(令和3年8月)	今回(令和3年12月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる	
鉱工業生産	持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる	
個人消費	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

7 - 9月期の鉱工業生産は、「輸送機械」が減少したこと、「電子デバ、電気・情報通信機械」が減少したこと等により、前期比3.0%減となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。南関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び南関東の大線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。
 3. 南関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
石油石炭、化学、プラスチック	22.2	4.6	3.2	6.1	0.2	1.8
輸送機械	14.1	3.2	10.6	4.1	2.6	30.0
汎・生産・業務用機械	13.7	7.9	2.6	2.1	1.5	0.9
電子デバ、電気・情報通信	12.6	1.1	5.7	1.6	8.7	4.0
食料品・たばこ	12.4	0.6		0.0	1.0	
鉱工業	100.0	2.6	3.0	2.8	1.8	4.0

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 7 - 9月期、9月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

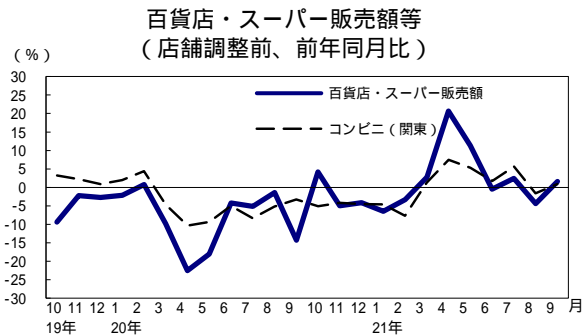
個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7 - 9月期は前期比1.4%減となった。月別にみると、7月は前月比0.9%減、8月は同1.6%減、9月は同0.0%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比0.1%減となった。月別にみると、7月は前年同月比2.4%増、8月は同4.4%減、9月は同1.6%増となった。



	2021年7 - 9月	2021年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.4	0.9	1.6	0.0
百貨店・スーパー(*2)	0.1	2.4	4.4	1.6
コンビニ(*3)	1.6	5.6	1.6	0.9
乗用車(*4)	12.9	1.6	0.3	30.9
(季節調整値)(*4)	11.5	0.2	4.5	28.9

(備考) 1. 季節調整前(前期(月)比(%)

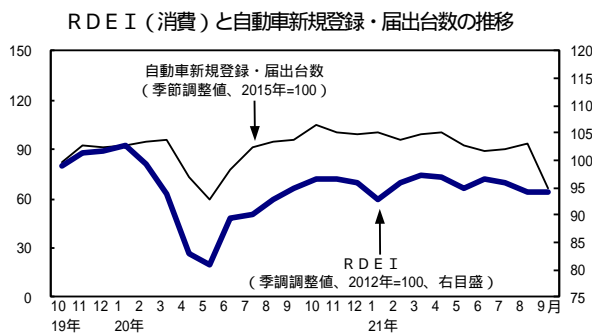
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

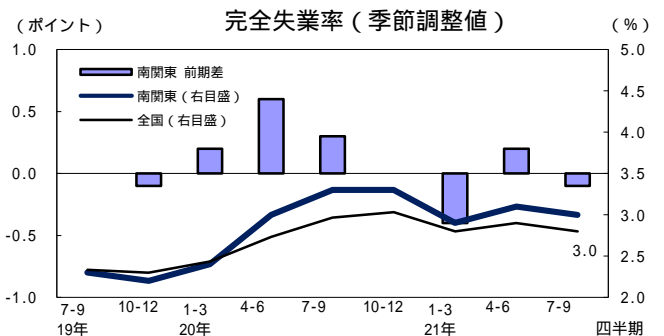
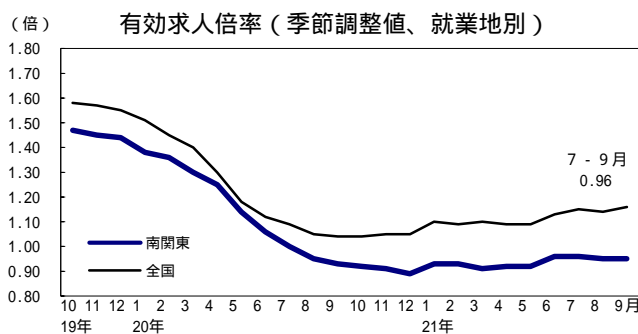
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年10月調査) 景気判断理由の概要

4. 南関東

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・寒くなり、肌着や靴下等の実用衣料品の売上が大変良い。新型コロナウイルスが収束しつつあるので、月末の売出しも良くなっている。外出着については相変わらず新型コロナウイルス発生以前には戻らない。旅行等はまだまだこれからのようである (衣料品専門店)。
			・緊急事態宣言が解除され、人が動き出しており、内食傾向が少し薄れている。加えて、上旬は気温が高かったものの、中旬から一気に気温が下がり、売れる物が大きく変わっている (スーパー)。
企業 動向 関連			・繁忙期に入ったが、物量が増えない。また、燃料価格の高騰により、収益が伸びてこない (輸送業)。
			・緊急事態宣言解除によりイベント等の制限が緩和され、集客イベント等が少しずつ動いてきている。案件の引き合いが非常に増えている (出版・印刷・同関連産業)。
雇用 関連		・新型コロナウイルス感染者数も減り、通常の生活に戻りつつあり、明るい兆しが見える (その他サービス業 [ソフト開発])。	
		・主要取引先の自動車メーカーが部品調達不足で減産している。当社も稼働日を減らすなどで対応している (輸送用機械器具製造業)。	
	その他の特徴 コメント		・新規求人が増加傾向にある。また、正社員求人の割合も増加しており、アフターコロナを見越した採用活動が本格化しつつある (職業安定所)。 ・学生の動きはインターネットが中心で、リアルな対面接触が少ないためか、じっくり企業研究をする時間がないようである。ゲーム感覚で進めていると、ミスマッチや内定辞退が多く発生するのではないかと、来年の就職活動の結果が心配である (民間職業紹介機関)。 ：緊急事態宣言が解除され、酒を出せるようになったため、週末は今までの2～3倍以上の客が来店するようになっている。今まで動けていなかった身体が、急に忙しくなり少々疲れ気味である (一般レストラン)。 ：新型コロナウイルス感染者数が急激に減少したことにより、ムードが良くなっているような気がする。10月24日をもって営業時間等に関する規制も解除されたので、現状としてはやや良くなっている (都市型ホテル)。
行き	家計 動向 関連		・新型コロナウイルス感染第6波の懸念もあり、しばらくは消費も含めて慎重に行動するとみられるため景気の急回復は見込めないが、第5波のような急激な感染拡大がなければ着実に消費は上向く (百貨店)。
			・半導体不足の問題や納期の短縮が改善しないと、回復の見込みがない (乗用車販売店)。
	企業 動向 関連		・原材料値上げの話もあるが、これからは品物自体も順調には入ってこないようなので、先行きが不安である (化学工業)。
			・今は新型コロナウイルスが落ち着いているので、感染第6波で広がらなければ、世の中の経済が少し動き出すのではないかと。3か月後は、期待を込めて少し良くなる (プラスチック製品製造業)。
	雇用 関連		・観光業、サービス業が回復してくれば、必ず求人が発生する傾向になるので、良い方向にいく (人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント		：10月に入り、目に見えて店の前の通行量が増加している。街全体の人流も活性化しており、このまま新型コロナウイルス感染第6波がなければ、年末に向けた消費に期待できる (その他専門店 [雑貨])。 ：客が新型コロナウイルスに慣れ、生活習慣が変わらないと思われるので、売上その他も変わらない (コンビニ)。	

(D I) 現状・先行き判断D I (南関東)の推移 (季節調整値)

